

「地域サプライヤーにおける省エネ改善等を通じた 脱炭素化の取組事例」

～GX推進(省エネ等)ワーキンググループの取組み～

自己紹介

1984年 九州工業大学電子工学大学院卒.

同年 トヨタ自動車工業株式会社入社(現トヨタ自動車株式会社) 電子設計担当

1992年4月 トヨタ自動車九州に転籍, 品質管理を担当後,

1998年1月 レクサスの北米情報収集のため, 北米駐在(サービス関係)

2001年4月 品質保証室長、品質管理室長、品質保証部次長, **塗装エンジニアリング室長、塗装部部長**

2015年1月 デミング賞, デミング賞大賞挑戦を含めTQM推進室の室長.

2019年11月 定年によりTQM推進室の主査を担当.

2023年4月 北九州産業学術推進機構(FAIS) 自動車産業支援センター長

2025年4月 北九州産業学術推進機構(FAIS) 自動車産業支援センター 参与

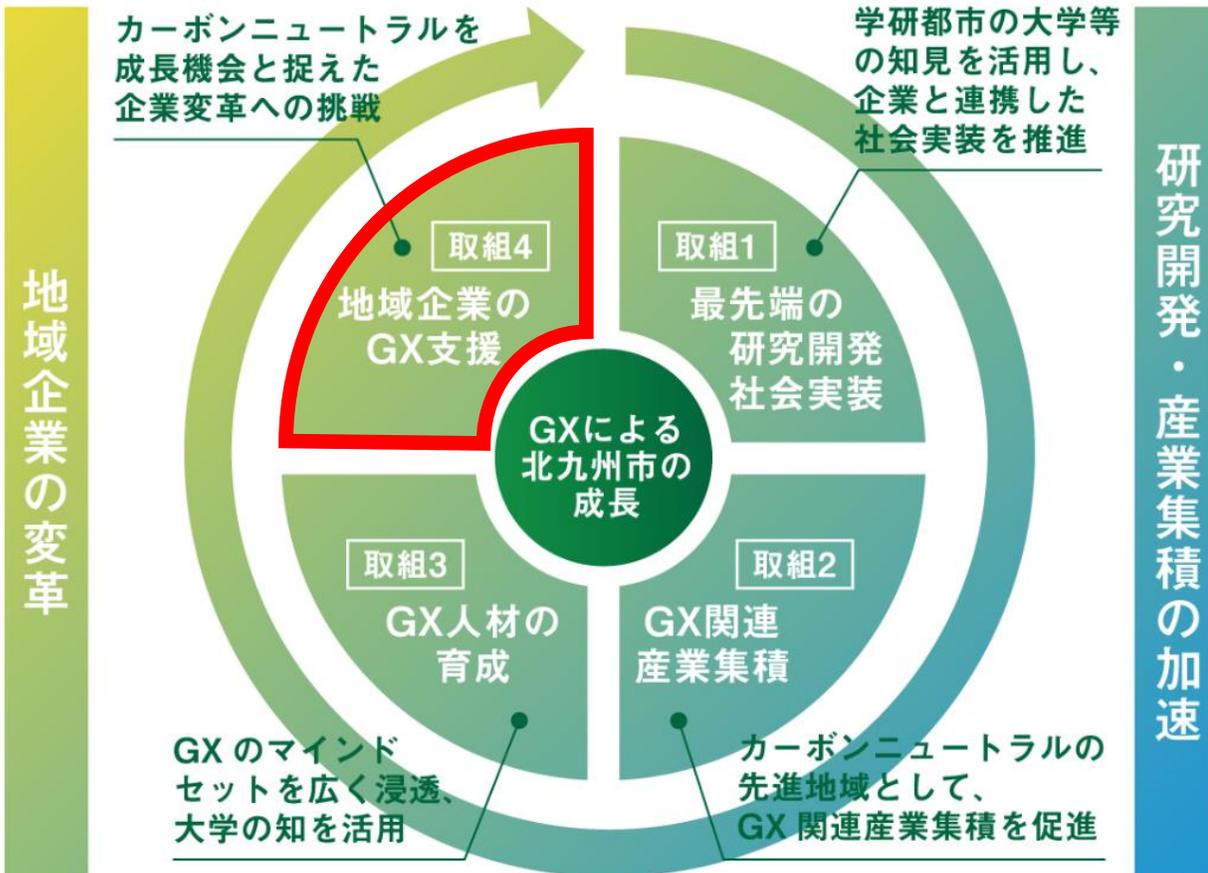
本日の説明内容

1. 北九州市GX推進コンソーシアム
2. パーツネット北九州の活動
3. GX(省エネ等)推進WGの活動内容
4. 活動事例紹介
5. GX(省エネ等)推進ワーキングの振り返り
6. 今後の予定

1. 北九州市GX推進コンソーシアム 設立：令和5年12月12日（火）

- * カーボンニュートラルの実現と地域産業のグリーン成長を目指す組織
- * 産官学金で連携し、人材育成、企業支援、研究開発促進を通じて、経済と環境の好循環を実現

① コンソーシアムの活動



地域企業のGX支援

Local Businesses GX Support

経済と環境の好循環を実現するモデル企業を市内から創出

Step.03
実行

グリーン成長関連の事業化支援
カーボンニュートラルに対する具体的な取組支援

Step.02
準備

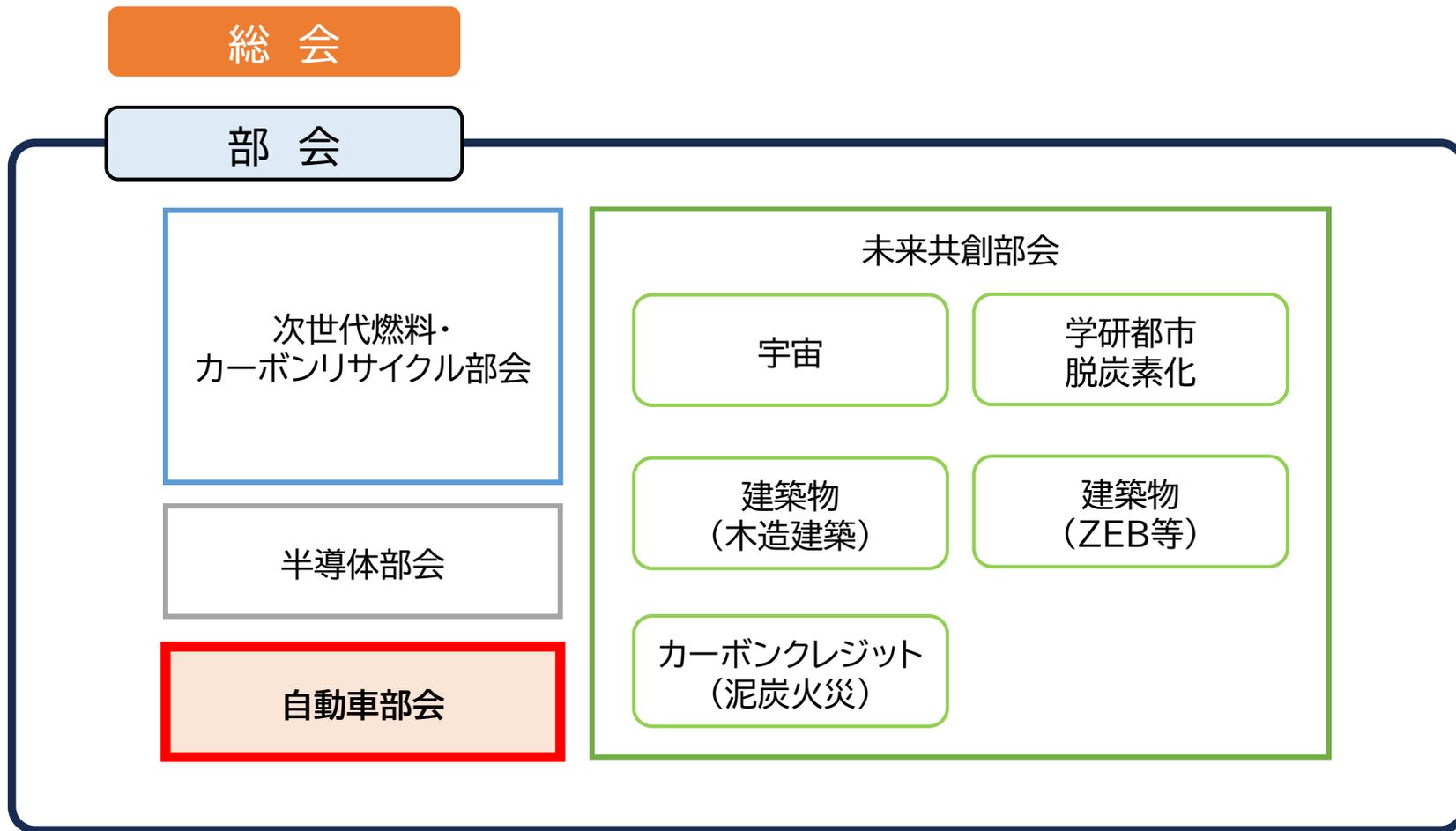
専門家による指導・伴走支援
人材育成（経営層向けスクール）

Step.01
気づき・機運醸成

セミナー・実践事例紹介
ワンストップ相談窓口開設

KTQ-GX
Challenge 2050

② コンソーシアムの体制



GXワンストップ相談窓口

GXビジネススクール

GX補助金

GX意識啓発

5

*** 自動車部会の中にGX推進(省エネ等)ワーキンググループを設立**

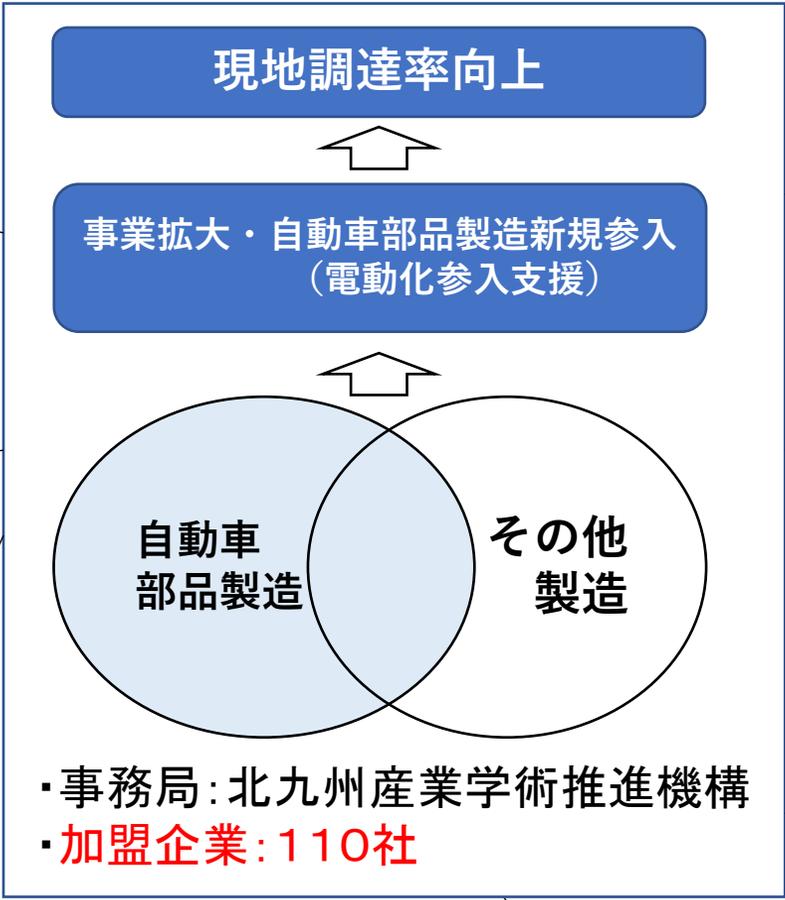
2. パーツネット北九州の活動

現場派遣

- ・ものづくり力向上
- ・品質、生産性向上

人材育成

- ・若手・中堅カリキュラム
- ・リーダー・幹部カリキュラム
- ・標準化推進カリキュラム
- ・専門家カリキュラム
- ・総合的品質管理活動出前講義



企業マッチング

- ・Tier2 ⇒ Tier1、OEM

自動車産業セミナー



展示会出展(オートモーティブワールド)



企業視察



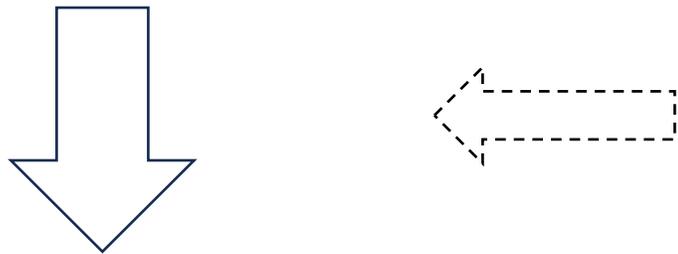
**GX推進(省エネ等)
ワーキンググループ**

- ・パーツネット北九州
役員企業で推進

3. GX(省エネ等)推進ワーキンググループの活動内容

① 中小企業のカーボンニュートラルを取り巻く課題

- ・中小企業の温室効果ガス(GHG)排出量は1.2億t~2.5億t(日本全体の1割~2割弱)
- ・中小企業の多くは、自社の経営に何らかの影響があると感じつつも、具体的な方策を検討するまでには至っていない。
- ・**資金面、情報面、知識面、人材面での制約がある中小企業にとって、カーボンニュートラルは積極的に取り組みづらい課題**
- ・**GHG排出量というものが目に見えず**、問題として意識されづらい。
- ・短期的な収益には結びつかないため、物価高騰、人手不足、賃上げなどの諸問題に比べ、**経営課題としての優先順位が低い。**



- ・サプライチェーン全体でのカーボンニュートラルを目指すグローバル大企業が増加
- ・融資先のGHG排出量を把握する動き(ESG)
- ・脱炭素促進に向けた規制や制度

対応の遅れは将来の経営リスク増加

② GX推進(省エネ等)ワーキンググループの目的と狙い

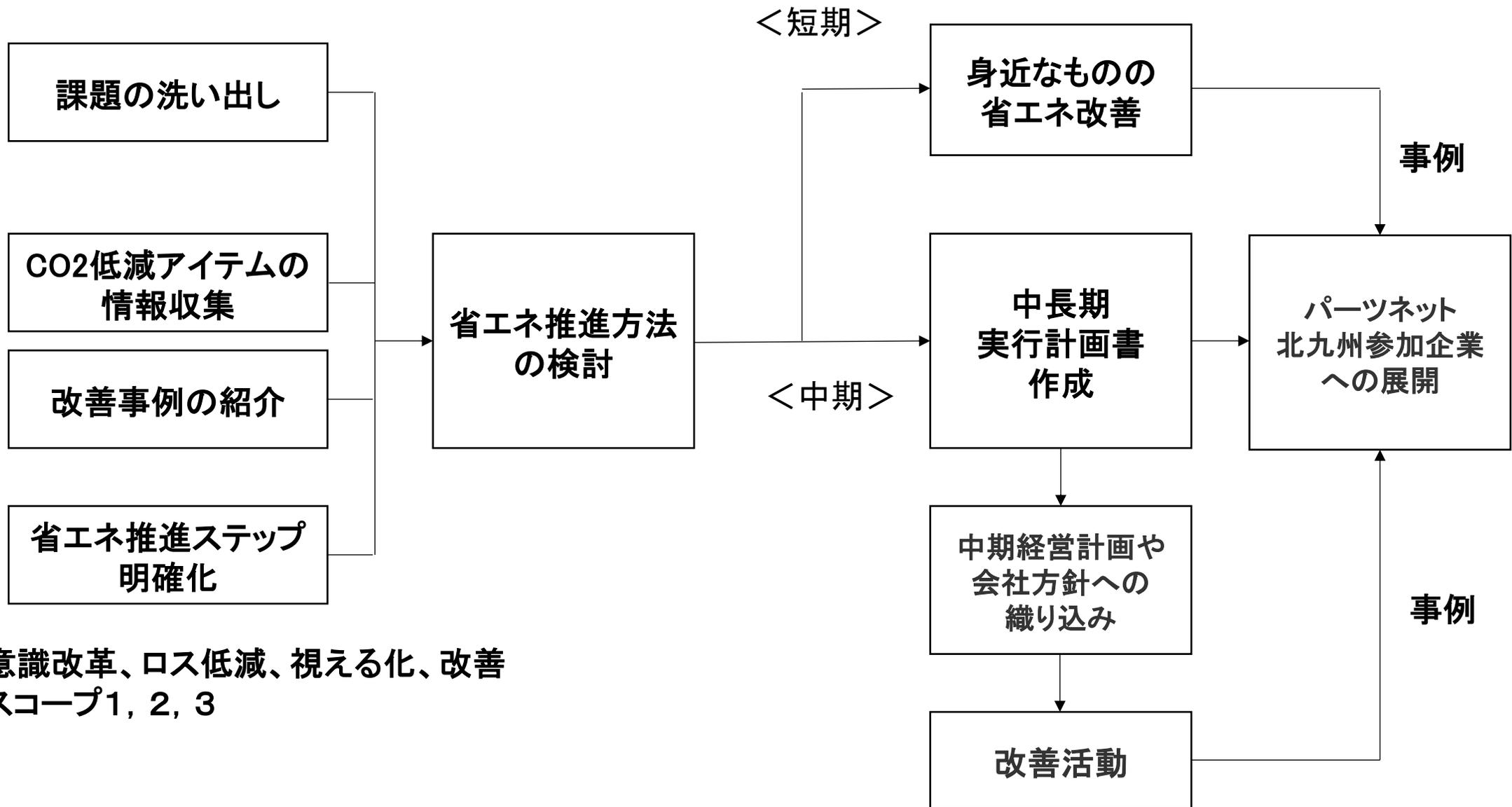
【目的】

- ・省エネ推進(カーボンニュートラル)の加速
- ・将来の経営リスクの低減(サプライチェーン、ESG、脱炭素規制など)

【狙い】

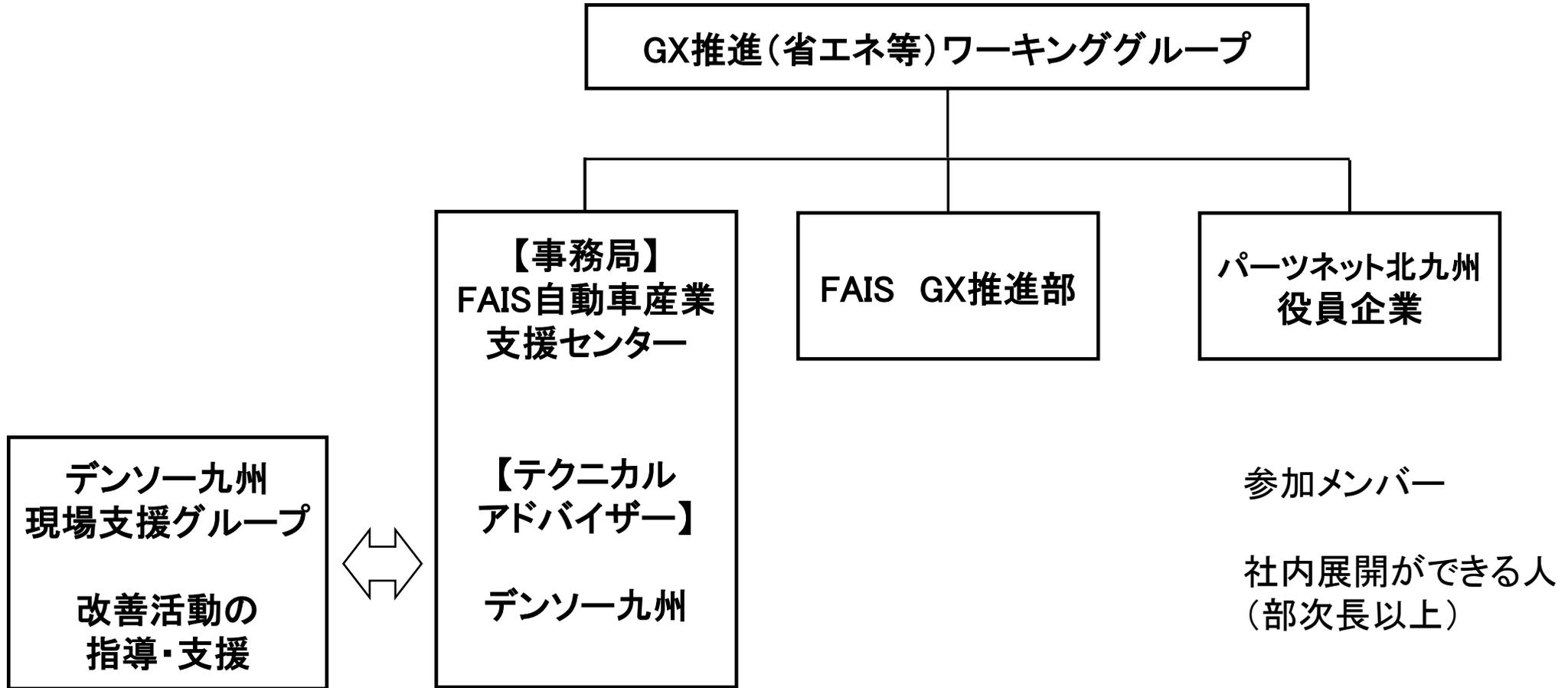
- ・WGにより課題の洗い出しや対応方法検討
- ・省エネ推進のモデルケースづくり(まずは、実行計画書の作成)
- ・身近なものの省エネ改善
- ・パーツネット北九州参加企業への展開

③ 活動内容



- ・意識改革、ロス低減、見える化、改善
- ・スコープ1, 2, 3

④ 運営体制



⑤ ワーキングの活動スケジュール

項目	2024年度						2025年度	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～9月	10～3月
GX推進ワーキング	(第1回) ★ (10/28)		(第2回) ★ (12/13)		(第3回) ★ (2/27)			(第4回) ★ (改善結果発表会)
現場改善 (デンソー九州 現場支援活動)						★	★ ★ ★	
相互研鑽会							各社の取組みを現地現物で確認 →	
カーボンニュートラル セミナー (九経局 & FAIS)							GX推進ワーキンググループの取組み紹介 ◆	

⑥ ワーキングの活動の議題

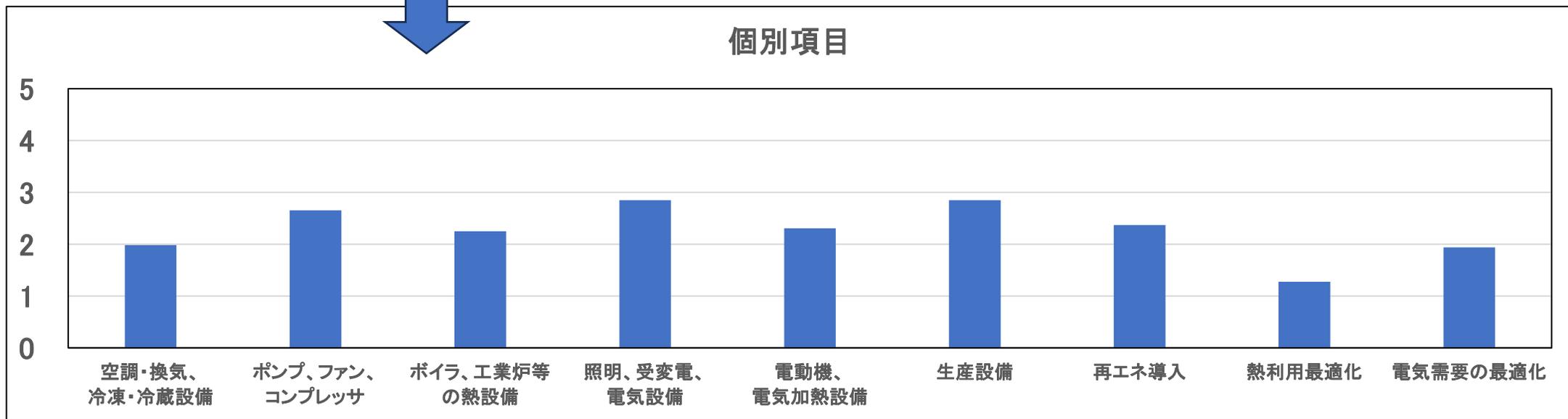
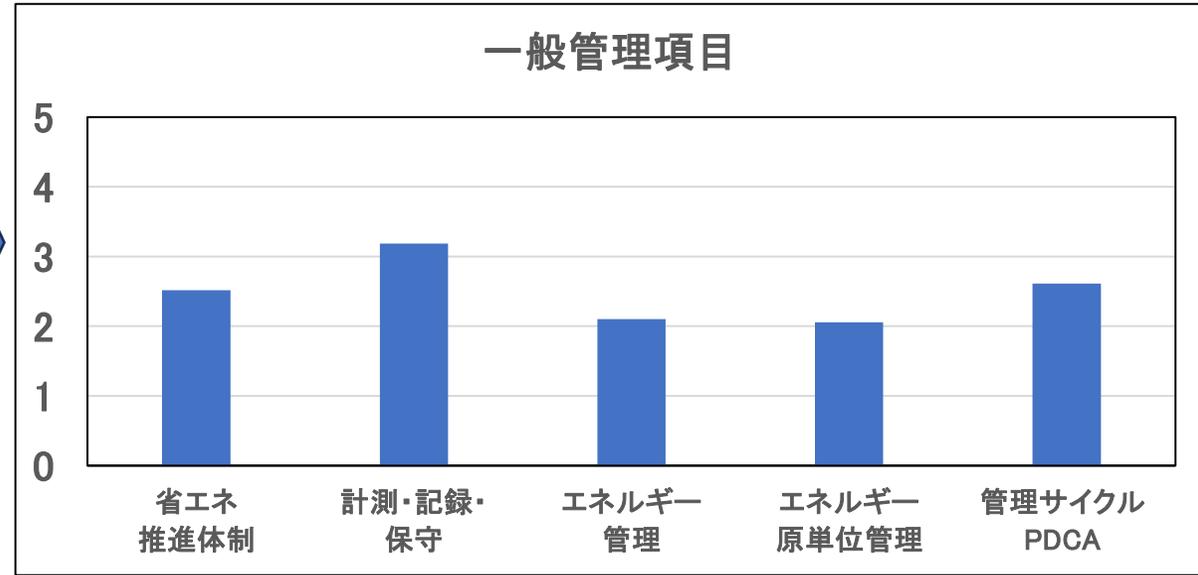
項目	第1回	第2回	第3回
全般	GX推進WGの活動内容 ・WGの目的と狙い ・具体的活動内容 ・運営体制 ・スケジュール		
	【講義】 ①GXの動向 ②環境教育(CSR,ESG,SDGs)		
課題の洗い出しと対応	GX推進に向けた課題洗い出し (一般管理項目:推進体制、計測・記録・保守、エネルギー管理、原単位管理、PDCA)	① 課題の対応 ② GX推進チェックシート (個別項目:空調、ポンプ、コンプレッサー、ボイラー、照明等)	GX推進チェックシート結果まとめ
排出量算出 原単位化		① CO2排出量算出、原単位化説明 ② 上記の実践(スコープ1, 2について)	CO2排出量算出、原単位化状況説明
中長期実行 計画作成	省エネ推進のステップ (事例)	① 中長期実行計画作成方法説明 ② 中長期実行計画事例紹介	中長期実行計画発表
改善 アイテム		省エネ改善事例集詳細説明 ・人の手による運用改善 ・設備導入による改善	
改善活動	現場改善活動について	現場改善活動事例紹介(シャボン玉石鹼)	WG企業との改善活動の進め方

4. 活動事例紹介



① 課題の洗い出しと対応

アンケート & 議論	一般管理項目	推進体制、計測・記録・保守、エネルギー管理、原単位管理、PDCAサイクル
	個別項目	空調、ポンプ、コンプレッサー、ボイラー、照明等



一般管理項目アンケート結果詳細

管理サイクル (PDCA)

省エネ活動を継続的に行う仕組み
 設備改善・対策の実施計画の見直し
 改善対策の効果検証
 省エネ目標の見直し
 省エネの目標値設定
 経営層の参画によるPDCA
 推進する責任者やリーダーの決定

省エネ推進体制

エネルギー原単位等の管理

工程別、製品別、部署別の原単位・経費管理

原単位管理

エネルギー単価算出

生産工程管理とエネルギー管理の融合

エネルギー消費状況の分析

ピーク電力の管理

測定・記録と常時監視

エネルギー使用量の集計、見える化

定期的な配管等の補修・漏洩点検

定期清掃、交換
計測器の校正検査

設備の日常点検・保守
主要設備の管理標準

主要設備の運転記録

運転状況の管理値やその範囲

設備台帳、図面などの文書管理

重点的管理対象設備の特定

省エネへ活動の時間や予算確保

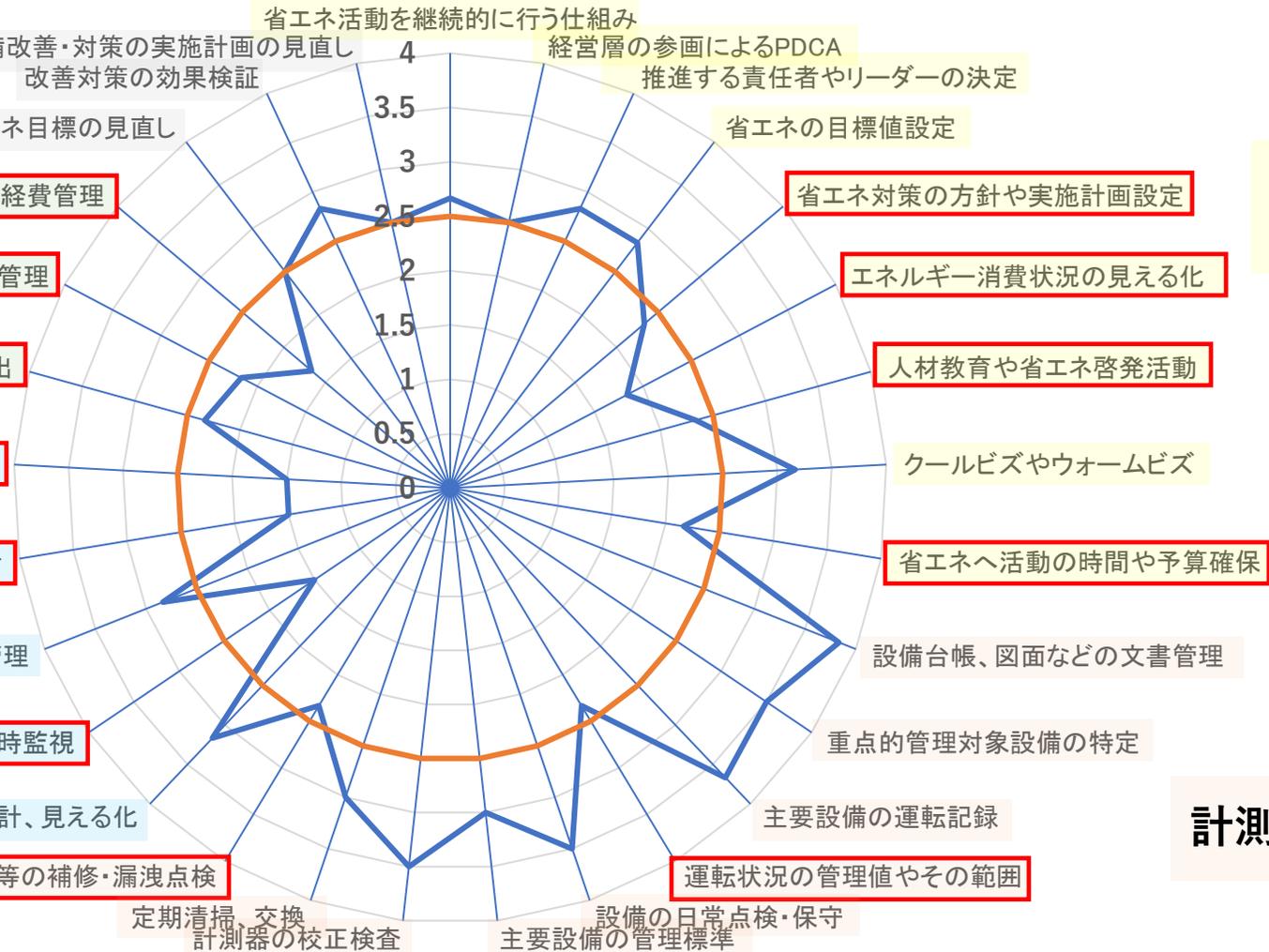
クールビズやウォームビズ

人材教育や省エネ啓発活動

エネルギー消費状況の見える化

省エネ対策の方針や実施計画設定

計測・記録・保守



一般管理項目の課題の対応

分類	チェック項目	対応	
1. 省エネ推進体制	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・推進事務局の設立 ・推進責任者、推進リーダーの決定 ・人手不足の時は兼務で(安全&環境、ISO14001推進メンバー) 	別紙1
	省エネ対策の方針や実施計画設定	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期実行計画の策定、年度方針への織込み ・省エネアイテムの積み上げと実行するためのアクションプラン策定 	別紙2
	エネルギー消費状況の見える化	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料、電力、ガスの使用量の把握と見える化 ・CO2排出量可視化ツールの活用 	別紙3
	人材教育や省エネ啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動を推進できる人材の育成(EMSの推進、情報収集、省エネアイテム技術支援) ・社外セミナー受講 ・内部監査員の育成 ・力量を求められるレベルまで上げる為の教育計画の策定と教育の実施 ・社内環境教育や環境啓蒙活動の推進 ・身近な省エネの啓発活動(消灯、エアコン温度設定、PCスリープ、シャットダウン等) 	別紙4
	省エネへ活動の時間や予算確保	<ul style="list-style-type: none"> ・改善活動、創意工夫提案に環境テーマを取り上げ推進 ・QCサークル活動で省エネテーマを取り上げる ・稼働停止時間の活用(長時間設備停止時に省エネ教育や改善活動実施) ・投資基準の緩和 ・補助金の活用 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・生産状況(ライン稼働率、設備稼働率、設備稼働状況など)とエネルギー消費を一体で管理する。(システムの融合) ・多少投資が必要(具体例 別紙) 	別紙5
4. エネルギー原単位等の管理	エネルギー単価算出	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリン、軽油、重油、電気、ガスなどの単価算出 	
	原単位管理	<ul style="list-style-type: none"> ・多品種少量生産では、「エネルギー使用量/生産量」、「エネルギー費/生産量」の管理が難しい。自社にとって、意味のある管理にすることが重要! ・自動車工場はやりやすい(電力量/台、エア/台など) 	別紙6
	工程別、製品別、部署別の原単位・経費管理	<ul style="list-style-type: none"> ・工程別、製品別、部署別の原単位・経費管理には、分電化などを進めていかないと詳細な管理ができない。 ・どの様な単位で管理していくのが最適か、しっかりと検討してから進める。 	別紙6

対応

する。(全ての設備で実施するのは大変!)

ける。

困を決める。

JCL,LCL)明確化)

使用量を測定・記録

ど、使用先別に測定・記録

効果によって、電気料金の削減が可能)

廃棄率などとエネルギー使用量の相関分析

機械学習の活用)

原単位管理のやり方

原単位管理 分母事例（輸送機械器具製造）

$$\text{エネルギー原単位} = \frac{\text{エネルギー使用量(電力量:kWh、ガス量:m}^3\text{、原油換算:k} \ell \text{等)}}{\text{エネルギー使用量と密接な関係を持つ量}}$$

事務所ビルの場合

- 延床面積
- 重量
- 面積×時間
- 営業時間
- 体積(空調をかけている時間)
- 人数

支店間比較、他社比較に有効

工場の場合

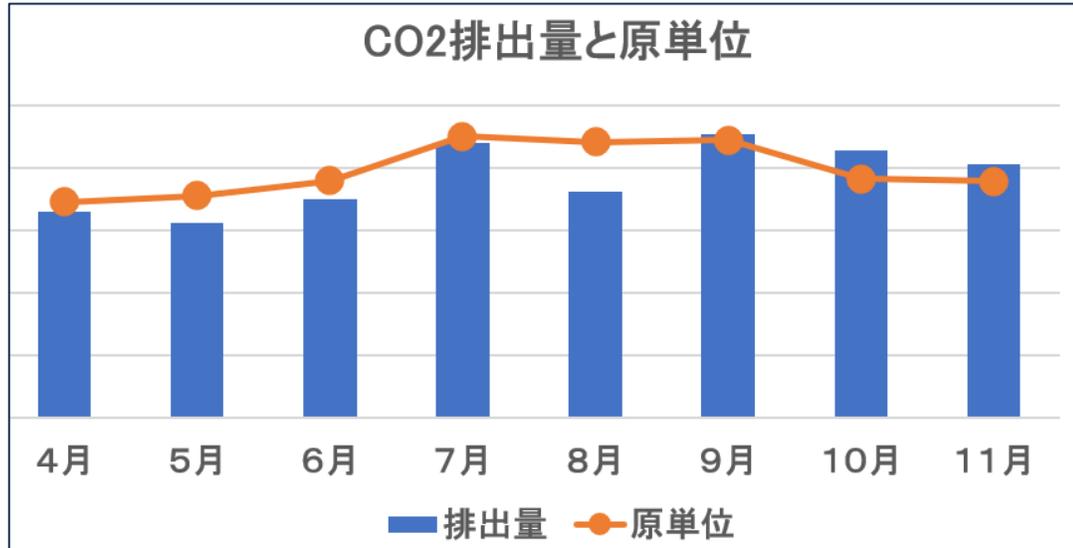
- 重量
- 出荷額
- 生産量
- 個数
- 面積
- 体積

生産量の増減に関わらず、
昨年比較が可能に

エネルギーの使い方を効率良く合理的に使用すると「エネルギー原単位」の値が低減されます。「分子を小さく」「分母を大きく」するように取り組みましょう。



各社で算出

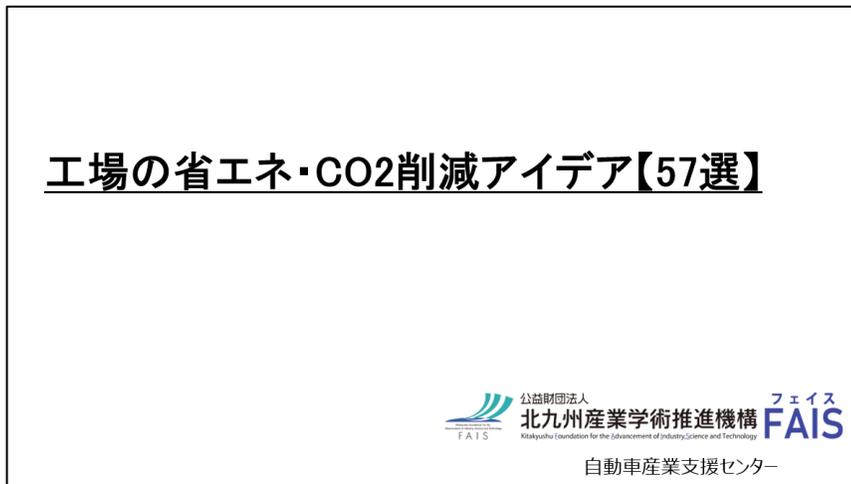


中分類		細分類		
31	輸送用機械器具製造業	3111	3113	
カテゴリー	分母名称	自動車製造業(二輪自動車を含む)	自動車部品・附属品製造業	
金額	売上高(円)	5	193	
	付加価値額(円)		154	
	生産高(円)	4	82	
	限界利益(円)	4		
	経費(円)		4	
	原価(円)		4	
	出荷高(円)	1	1	
生産量	研究開発費(円)			
	生産量(台)	29	72	
	生産量(個)		98	
	生産量(t)		8	
	生産量(本)		12	
	生産量(枚)		1	
	生産量(その他)		4	
	生産量(km)		3	
	生産量(m2)		2	
	生産量(kl)		1	
	生産量(パック)		1	
	生産量(ハンガー)		1	
	生産量(枠)		1	
面積	延床面積(m2)	1	3	
	その他量	材料使用量(t)		14
		溶接量(t)		
		溶解量(t)		4
		材料購入量(t)		3
		加工くず量(t)		2
		納入数(台)		2
		IT機器消費電力量(MWh)		
		原料処理量(t)		1
		鋼材量(t)		
		鋳造量(t)		1
		在庫量(本)		1

② 省エネ推進のステップ

	ステップ1 意識改革(気づき・機運醸成) (GXに向けた省エネ推進)		ステップ2 準備・情報開示 (温室効果ガス排出量と削減施策の情報開示)		ステップ3 実行・事業改革 (事業戦略の再構築・新規事業創出)	
GX教育	GXコンソーシアム入会					
情報収集	各種セミナー受講(意識改革・情報収集)		展示会(情報収集)			
	GXエグゼクティブ・ビジネススクール					
見える化	法規制・取引先の情報収集					
	GX人材の育成					
		ロスの把握 ・品質ロス、生産性ロス	Scope1 直接排出した温室効果ガス排出量把握	工場、ライン別など 詳細な排出量把握 (分電化など)	Scope3 自社の事業活動に関連する他社の温室効果ガス排出量把握	
			Scope2 間接的な温室効果ガス排出量把握	GHG排出量可視化 ツールの活用		
GX戦略 及び方策 づくり				新規事業検討 (排出量低減と企業利益の両立)	目標設定 (経営戦略、中期経営計画、会社方針への織込み)	新規事業創出
				償却基準明確化 (費用対効果)	↓ 排出量低減方策の検討と積み上げ ↓	
GHG 排出量 低減	省エネアイテム情報共有	ロスの低減 ・品質ロスの低減 ・生産性ロスの低減 ・原動力ロス低減 (エアもれ、蒸気もれ)		ロスの低減 (見える化によって分かったロス)	低減方策の実行 ・省エネアイテム ・工法改善 ・近接化	新規事業によるGHG 排出量低減
	身近なものの省エネ推進 空調、照明、節電					
	人の手による運用改善 (投資がかからないもの)	働き方改革				
		非稼働時の電源オフ				

③ 省エネ改善事例集詳細説明



分類	内容（人の手による運用改善）
ボイラ	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼空気比の設定を改善する ・高効率ボイラを優先運転(運転台数を削減) ・運転圧力を調整する ・蒸気配管の継手・バルブ・スチームトラップ等の蒸気漏れ防止
工業炉	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼空気比の設定を改善する
コンプレッサ・ファン・ポンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・吐出圧の管理 ・空気洩れの対策
空調	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルターの清掃 ・室外機の温度環境や障害物の見直し ・熱交換器(フィン)の清掃 ・残熱利用による運転時間の短縮 ・分散起動 ・ナイトパーズ ・冷凍機の冷却水の温度調整 ・空調機の制御温度の変更 ・冷凍・冷蔵庫の外気進入防止

- ・人の手による運用での改善
- ・設備導入による改善

人の手による運用での改善でも大きな**コスト低減**、**排出量低減**になることを理解してもらった。

④ 中長期実行計画作成と発表

項目	内容		責任者	関連部署	推進組織	管理項目	チェック頻度	期限	2025年				2026年				2027年				2028年				2029年								
									1月	3月	7月	10月	1月	3月	7月	10月	1月	3月	7月	10月	1月	3月	7月	10月	1月	3月	7月	10月					
GX教育 情報収集	GXコンソーシアム入会				EA21推進G		-		★ 入会																								
	情報収集	セミナー受講			EA21推進G		1/3M	都度	EA21事務局主催セミナー参加 GX知識、技術習得、排出量把握方法、省エネアイテム・新技術の情報収集																								
		展示会			EA21推進G		1/3M	都度	排出量把握方法、省エネアイテム・新技術の情報収集																								
		法規制、取引先情報			EA21推進G		1/3M	都度	法規制動向・取引先からの要求、サプライチェーン、銀行など																								
	意識改革	経営層・マネジメント層				EA21推進G		1/3M	2025年9月末	社内GX教育																							
		全社員				EA21推進G		1/6M	2025年度末	社内GX教育																							
	人材育成	GX人材の育成				EA21推進G	プロ人材 2名育成	1/6M	2027年末	GXプロ人材 2名育成																							
見える化	ロスの把握	品質ロス、生産ロス			EA21推進G		1/3M	2025年12月	→																								
	Scope1	GHG排出量把握			EA21推進G		1/3M	2025年12月	全社での把握 → 詳細把握																								
	Scope2	GHG排出量把握			EA21推進G		1/3M	2025年12月	全社での把握 → 分電化 → 詳細把握																								
	可視化ツール	ツール導入検討と運用			EA21推進G		1/1M	2026/4/1~	導入★ → 運用																								
	Scope3	GHG排出量把握			EA21推進G		1/3M	2027年12月	詳細方法検討 →																								
GX戦略 方策づくり	目標設定	中長期低減目標の設定			EA21推進G		-	2027年4月	排出量低減目標設定																								
	経営目標	中期経営計画や会社方針への織込み			EA21推進G		-	2029年12月	中期経																								
	認証対応	EA21の会社目標に排出量低減目標値設定			EA21推進G		-	2027年4月	EA21																								
	方策検討	方策の検討とアイテム積み上げ			EA21推進G		-	2029年12月	低減アイ																								
	償却基準	投資基準の明確化			EA21推進G		-	2027年1月	償却基準明確化																								
排出量 低減活動	身近な省エネ	空調、照明、節電など			EA21推進G		1/3M	2026年3月	別紙スケジュールに基づく																								
	ロスの低減	品質ロス、生産ロス、原動カロスの低減			EA21推進G		1/3M	2027年12月	品質ロス、生産ロス、原動カロスの低減、働き方改革																								
	方策の実行	積み上げアイテムの実行			EA21推進G		1/3M	2029年12月																									



各社発表

アイテムの実行

⑤ 現場改善活動

(1) 第1回目企業訪問、点検 ⇒ 改善項目の決定

	一般管理項目	空調関係	エア・コンプレッサー関係	ボイラー・工業炉関係	生産設備	生産管理
MA社		・発泡ラインの熱拡散防止検討 ⇒エアコン負荷抑制	・コンプレッサの吐出圧低減 ・省エアノズル、パルスノズル設置			・片寄せ生産検討
MI社			・コンプレッサ吐出圧低減 ・不要時の工場エア削減(バルブ設置) ・エア漏れ対策 ・メイン配管ループ化	・アニール炉の使用電力削減		
T社	・電力、ガス使用量の見える化レベルアップ 月単位⇒日単位⇒時間単位、工場単位⇒ライン単位⇒設備単位		・コンプレッサの吐出圧低減 ・省エアノズル、パルスノズル設置 ・レギュレータによる使用圧低減 ・コンプレッサーの稼働方法改善 ⇒ベース運転機と負荷追従機			
Y社		・成型機に断熱ジャケット取付 ⇒放熱抑止と工場内温度上昇抑	・省エアノズル、パルスノズル設置 ・レギュレータによる使用圧の低減 ・サージタン設置			
N社			・省エアノズル、パルスノズル設置 ・レギュレータによる使用圧低減 ・エア漏れ対策		・オイルクーラー定期清掃(設備負荷低減)	・設備の適正稼働

(2) 中長期改善項目の決定 (目標設定と実績把握)

分類	I	II	III	チェック項目	25/2月	目標値			2025年度診断				2026年度診断				2027年度診断					
					自己診断 初回	2025年	2026年	2027年	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月		
空調設備の管理	<input type="checkbox"/>			季節に応じた室内温度・湿度の適正管理をしていますか																		
	<input type="checkbox"/>			週間・年間のルールを定め、スケジュール運転をしていますか																		
		<input type="checkbox"/>		冷房負荷が少ない時、冷水出口温度を緩和していますか		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			<input type="checkbox"/>	空調エリアでは、すき間風などの外気侵入を遮断していますか																		
			<input type="checkbox"/>	外気導入量制御をしていますか																		
			<input type="checkbox"/>	熱源機器（冷凍機等）の台数制御をしていますか																		
	空調の省エネ対策	<input type="checkbox"/>			窓の日射対策（窓際の植栽、ブラインド、カーテン等）をしていますか																	
		<input type="checkbox"/>			フィルタ清掃や屋外機のフィン洗浄を、定期的に行っていますか																	
		<input type="checkbox"/>			夏期、室外機の日よけや散水を実施していますか																	
			<input type="checkbox"/>		中間期、冬期で冷房が必要な場合、外気冷房を活用しましたか																	
				<input type="checkbox"/>	屋根への遮熱塗料の塗布や、屋上への植栽を実施していますか																	
				<input type="checkbox"/>	断熱性が良い壁や天井等にしていますか																	
			<input type="checkbox"/>	熱搬送機（ポンプ・ブロワ）では負荷に応じたインバータによる流量制御をしていますか																		
			<input type="checkbox"/>	空調エリアを小さくできませんか（間仕切り、高天井の内張り等）																		
換気設備			<input type="checkbox"/>	空調エリアが広く人数が少ない場合、スポットクーラーを使用していますか																		
			<input type="checkbox"/>	高効率空調設備に更新していますか																		
	<input type="checkbox"/>			不使用エリアおよび不使用時に換気を停止していますか																		
		<input type="checkbox"/>		電気室・機械室等の換気ファンについて、室温管理運転をしていますか																		
冷凍・冷蔵設備		<input type="checkbox"/>		換気回数の適正化や間欠運転等により、換気量を調整していますか																		
			<input type="checkbox"/>	季節によって外気導入量を変更していますか																		
			<input type="checkbox"/>	部屋全体の過剰排気対策として、局所排気を実施していますか																		
	<input type="checkbox"/>			庫内の設定温度は適正ですか																		
	<input type="checkbox"/>			冷水出入口温度・圧力、冷媒の出入口圧力は適正ですか																		
	<input type="checkbox"/>			冷却水の水質管理（電気伝導度）をしていますか																		
		<input type="checkbox"/>		季節などに応じてデフロスト（霜取り）回数を減らせませんか																		
		<input type="checkbox"/>		冷凍機や冷却塔のポンプは流量制御をしていますか（インバータ導入等）																		
		<input type="checkbox"/>	扉の開閉回数減・開時間の短縮、エアカーテン設置等を実施していますか																			
		<input type="checkbox"/>	庫内照明の発熱を低減していますか（例：LED照明の採用）																			
		<input type="checkbox"/>	壁面や天井・配管、扉の断熱処理で、断熱不良により氷結を起こしている部分がありませんか																			
		<input type="checkbox"/>	高効率冷凍・冷蔵設備を採用していますか																			

・目標設定による改善スピードのアップ
 ・改善項目の洗い出し⇒現場支援項目の絞り込み

- I. 日常業務に組み込んで実施できる（技術的なハードルが殆どない）もの。
- II. 専門家のアドバイス等により自らが実施できる（短期の計測等、技術的知見を要する）取り組み。
- III. 設備投資が必要な取り組み

5. GX推進ワーキングの振り返り

項目	第1～3回WG内容
全般	GX推進WGの活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・WGの目的と狙い ・具体的活動内容 ・運営体制 ・スケジュール
	【講義】 ① GXの動向 ② 環境教育(CSR,ESG,SDGs)
課題の洗い出しと対応	GX推進に向けた課題洗い出し ① GX推進チェックシートによる自主評価 ② 課題の対応
排出量算出原単位化	① CO2排出量算出、原単位化説明 ② 上記の実践(スコープ1, 2について)
中長期実行計画作成	① GX(省エネ等)推進のステップ ② 中長期実行計画作成方法説明 ③ 中長期実行計画事例紹介 ④ 中長期実行計画発表
改善アイテム	省エネ改善事例集詳細説明 <ul style="list-style-type: none"> ・人の手による運用改善 ・設備導入による改善
改善活動	① 現場改善活動について ② 現場改善活動事例紹介(シャボン玉石鹸)

- ・GXの知識不足、進め方不明
- ・省エネ改善を取り合えずやっていた。
- ・省エネアイテムの知識不足
- ・全社的な取組みができていない。



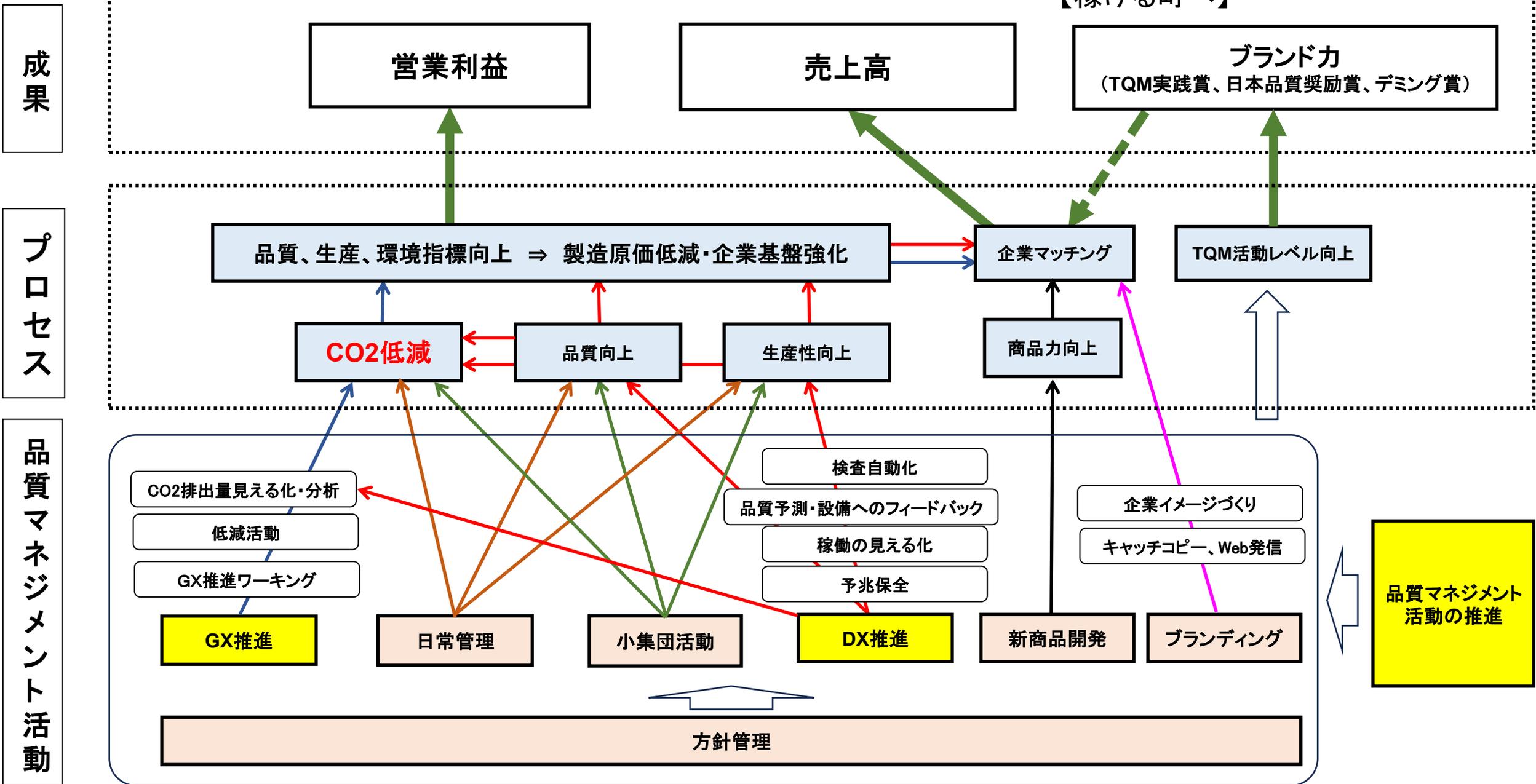
- ・自社の立ち位置把握
- ・身近な省エネの発見
- ・省エネアイテムが勉強になった
- ・GXの進め方、方向性が理解できた。
- ・中長期的な実行計画を立てて、GXを推進していく必要性の理解。
- ・省エネ改善⇒利益創出への貢献
- ・開催頻度、開催間隔、時間は適切
- ・他の企業へ水平展開

6. 今後の予定

項目	2025年度												2026年度				
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~9月	10~3月				
パーツネット北九州	● 役員会		★ 総会		● 役員会			● 役員会		● 定例会							
前年度GX推進ワーキンググループ改善事例発表会																	
GX推進ワーキング				募集		(第1回) ★	(第2回) ★	(第3回) ★					(第4回) ★ (改善結果発表会)				
現場改善(デンソー九州現場支援活動)											★	★	★				
パーツネット北九州SQC/機械学習講座									●	品質の問題解決力向上				エネルギー消費状況分析			

パーツネット北九州 成果の出る活動体系図

【稼げる町へ】



ご清聴ありがとうございました